

主 題：キリストは必ず再臨される6 = 主の約束は実現する

聖書箇所：ペテロの手紙第二 3章17-18節

今朝は、ペテロの手紙第二の最後のところをごいっしょに見ていきます。特に、3：14からペテロは「クリスチャンとしてふさわしく生きる」ということを私たちに教えてくれました。

☆キリスト者としてふさわしく生きる

A. 主の約束に対する忠実さ 14 a 節

「主が帰って来られる」という神の約束を信じているなら、それがいつ起こるか分からないゆえに、切迫感をもっていつ主にお会いしてもいいように、備えをもってこの日を生きていきなさいと、そのことを彼は先ず教えました。

B. 救いに対する忠実さ 14 b 節

救われた者はそれで終わったのではなく、救われた者としての歩みが始まったのだから、益々救いの達成のために最善を尽くしていきなさいと、これはクリスチャンとして、救われた者としてそれにふさわしく歩んでいく「聖化」のことでした。

C. 使命に対する忠実さ 15 節

イエス・キリストによって神と和解させていただいた私たちは、そして、救いに与った私たちは、今度は神との和解を伝える者になったのです。神と和解することは可能である、イエス・キリストによって信じるすべての者は神と和解できるというメッセージを伝えなさい、その務めが信仰者である私たちに与えられたということを見ました。

D. みことばに対する忠実さ 15 b、16 節

聖書のことばは神のおことばであるゆえに、それに忠実に従っていくことが私たちの責任だと。決して、この真理を曲げるようなことがあってはならないと警告されていました。悲しいことに、それがもうすでに起こっています。教会の中で聖書の権威がいつの間にか失墜してしまった。私たちが掲げるのは聖書の権威であって、ここにのみ権威があるということです。人間ではありません。神のおことばに権威があるのです。ゆえに、私たちはそのおことばを正しく伝えるだけでなく、それに従っていこうとするのです。

E. 信仰に対する忠実さ 17 節

今日見ていく17節には第5番目の具体的な教えが記されています。17節は「愛する人たち。」という書き出しです。このことばをペテロは何度も使って来ました。彼がどれほど小アジアのクリスチャンたちを愛していたのかが分かります。彼が愛していたから、この人たちの信仰をいつも心に掛けていて、惑わされることがないように、正しく成長できるようにと、そのことを願ってこの手紙を記したことはすでに学びました。「愛する人たち。そういうわけですから、このことをあらかじめ知っておいて、よく気をつけ、無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。」

1. 誘惑への備え 17 節 : ペテロは愛する兄弟たちに警告をする

「愛する人たち。そういうわけですから、このことをあらかじめ知っておいて、」と続いています。
・このことをあらかじめ知っておいて : 何のことか？私たちはすでに見て来ましたが、にせ教師たちが現れること、彼らは自分の欲に従って生きて真理を曲解し、教会の人たちを誤りに導いて混乱をもたらすということ、そのことを「あらかじめ知っておくように」と言うのです。すでにそのような働きがにせ教師たちによって為されていた可能性は十分にあります。

そして、主イエスは実際にこの地上におられたときに「備えをしていなさい」と命じておられます。マルコ13：23「だから、気をつけていなさい。わたしは、何もかも前もって話しました。」と、だから、ペテロも言いましたが、主イエスご自身もこのようにその当時の人たちに語っておられたのです。こういうことになるから、そのことが起こったときに動揺しないように、前もって準備しておくようにと。

聖書を見ると、イエス・キリストがこの地上に帰って来られる前に、地上ではどのようなことが起こるのか？そのことが記されているので、私たちはよく知っています。主の再臨に関する兆候が記されています。マタイの福音書の24、25章にはどのような兆候が起こるのかが書かれています。徴（しるし）が記されているのは、イエス・キリストがこの地上に帰って来る前の徴です。今、私たちクリスチャンが待っているのは地上再臨ではなく空中再臨です。空中再臨に関してはどのような徴も記されていません。なぜなら、これは奥義だからです。旧約の人たちは全く知らないことです。

でも、主が地上に帰って来られる地上再臨については、旧約の時代でも教えられています。みなに関

心は「では、どのようなことがその兆候なのだろう？いつその終わりが来るのだろうか？」です。マタイの福音書にも弟子たちがその質問をしていることが記されています。24：3「イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょう。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」と、そして、「：4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。：5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。」と続きます。これはイエスが地上にクリスチャンたちとともに帰って来る地上再臨についての徴です。空中再臨については、見て来たようにⅡペテロ3：10「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。…」と、突然一瞬のうちの出来事です。

ですから、このような時代になっていく、でも、今、私たちはそれがもう自分たちの周りであることを知っています。私たちクリスチャンは空中再臨は地上再臨よりも7年も前に起こるので、それが大変近づいていることを知ります。いずれにしろ、私たちはどのようなことが起こるのかという聖書の教えをしっかりと知った上で、それに対する備えを為していくことが必要です。ペテロが言う通り「よく気をつけ」と、この動詞は現在形の命令です。ペテロはそうのようにあり続けなさいと命令を与えるのです。では、どんな命令か？このように続きます。「無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。」と。

・自分自身の堅実さ：これは新約聖書にこの箇所にはしか出て来ないことばです。このことばは「動かなくする、心の強固さ、堅実さ」という意味です。ですから、このことばを使ってペテロが言いたいことは「あなたはどんなことがあっても、どんな教えを聞いても、しっかりと聖書の真理に立って、偽りの教えに動かされることがないようにしなさい。」です。いろいろな教えが入って来ても動揺することなく、聖書が何を言っているのか、そこにしっかりと立ちなさいと言います。Ⅱペテロ1：12には「ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたがたに思い起こさせようとするのです。」と書かれています。

・失う：「…自分自身の堅実さを失うことにならないようにしなさい。」とあります。「失う」とは完全に無くなってしまおうということではありません。「落ちる、遠のく」という意味です。ガラテヤ5：4には「律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。」とあります。何らかの惑わしによってこれまでの状態から落ちてしまおうということです。皆さんがよくご存じのところはエペソ教会に対してヨハネが記しているところです。黙示録2：4、5に「：4 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。：5 それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。」と書かれています。つまり、何か原因があって、かつて持っていた神への愛が薄れてしまったのです。

ですから、そういうことのないように、あなたがかつてもっていた主に対する信仰、神のことばを堅く信じてその上に立っていた、その思いが弱ってしまうことがないように、そこから落ちてしまおうことがないようにと警告をするのです。

2. 誘惑の現実

実際に、誘惑する者たちがいることは見て来ました。ここにもそのことが書かれています。「無節操な者たちの迷いに誘い込まれて」と。

1) 誘惑者たち：「無節操」ということばは余り聞きません。実は、このことばは非常に面白いことばですが、これは「法に反すること」、特に、ユダヤ人の法に関してこのことばは使われ「その法に反すること」です。というのは、この「法」という名詞の前に否定の接頭語「NOT」がついているのです。ですから、「無節操」とは神の教えに反するという、それに従わないということです。「無節操、放埒な者」、つまり、道から外れている者のことです。行いや生活がだらしない人です。まさに、「無節操」はこのような人のことだと言うのです。

思い出してください。この人たちは教会の中に入り込んで来て、見かけは立派ですが、実際の生活はみことばに反するものでした。しみや傷のある者でした。そして、彼らはその生き方もそうだし、彼らもたらす正しくない偽りの教えによって、正しく歩みたいという人たちを誘惑していたのです。それがこの「無節操」と呼ばれている人たちです。こういう人たちがすでに教会にいたのでしょうか。Ⅱペテロ2：3、7はすでに見ましたが、このように書かれています。「：3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。」「7 また、無節操な者たちの好色なふるまいによって悩まされていた義人ロトを救い出されました。」

2) 誘惑の実態：次に「迷いに誘い込まれて」とあります。彼らがすることは「迷わせること」です。この「迷い」ということばも面白い名詞で、英語では「エラー」です。誤った考え、欺き、誤謬です。

この人たちの生き方は罪の中を生きているのです。見せかけは立派でもそういう人たちなのです。彼らは誤った教え、エラーをもって人々を迷わせているというのです。

「誘い込まれて」という動詞は「そこにいっしょに連れ去られてしまう、ともに運び去る」という意味です。だから、間違った教えに惑わされることによって、彼らの教えに運ばれて行ってしまふ、いっしょに連れ去られてしまうということです。そして、「誘い込まれて」という動詞は受け身です。そのような人たちとともにいるなら、その人たちの影響を受けてしまうということです。なぜなら、彼らは神のおことばであるこの聖書のみことばを曲解して、そして、自分たちが真理に従わないだけでなく、真理でない偽りの教えをもって真理に従おうとする人々を惑わしているのです。

悲しいことに、このようなことは教会史の中で何度も起こって来たことです。2000年前だけでなく今の私たちの中にも同じような問題があります。神のことばではなく人間の知恵や考えに頼り始めると、そのような問題に引き込まれていってしまいます。私たちに必要なこと、私たちの責任は、どんな新しい教えが入って来ようと、どんなに著名な人が言ったとしても、それは本当に聖書が言っていることなのかを確かめることです。自分でできないなら、そのことを願っている信仰者や兄弟姉妹たちといっしょになって「これは本当に神の教えなのかどうか？」と考えることです。

今話していることは、あなた自身がみことばに対して真剣になるということです。「学んでもどうせ分らないから…」ではなく、もうすでに見て来たように、神はあなたに聖霊をくださり、この大切な神のメッセージをあなたは自分で個人的に知ることができるのです。そうでなければ皆さん、聖書を持つ必要がないでしょう。神が聖書をくださったのは、聖霊をくださったのは、神が助けてあなたが聖書を理解することができるようにです。その責任があるということをしかり覚えてください。

そして、そのような信仰者がこの日本にもいます。感謝なことに、私もいろんな人たちにお会いしますが、確かに、そういう人たちがいるのです。「本当にこれが聖書のことばなのか？本当にそれが教えられていることなのか？」と…。その人たちをお会いすると嬉しくなります。なぜなら、それが私たちの責任だとみことばが教えるからです。偽りの教えをもたらず彼らには厳しいさばきがあることはすでに16節で見ました。「…無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の個所の場合もそうするのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。」と。もし、あなたの心が定まっていなければ、つまり、あなたの信仰がしっかりとみことばに根付いていなければ、こういう人々の餌食になってしまうということです。彼らはそのような人々を一人でも起こそうとしてそのような人を狙っているのです。

17節にある「誘い込まれて」ということばは「えさで誘う、えさで捕える」ということで、ちょうど、疑似餌に騙されて釣られる魚を表しています。本当のえさではない疑似餌です。それに騙されてそこに食い付いていく魚のような、そういう姿を表わしているのです。いろんな教えによって、あたかもそれがすばらしい教えであるかのように信じて、それに食い付いてしまう。そういうことをこの無節操な偽りの教師たちは行おうとしているし、実際に行っていると言うのです。繰り返します。だから、あなたはしっかりと聖書のことばに立つことです。あなたが聞くメッセージは本当に聖書がそのように言っているのかどうかを吟味することです。でも、実際にそう言いながらも多くの人が惑わされてしまいます。誘惑に弱い原因はいったい何なのか？幾つか挙げます。

* 誘惑に弱い原因 「誘惑に弱い人」とは？

(1) 聖書を学ばない人

私たちは信仰によって生まれ変わりました。どのように変わったのか？これまで私たちは生まれながらに自分の判断に基づいて物事を選択して来ました。ところが、信仰によって今度は自分の判断ではなくて、神のみこころは何かを考えてそれを選択するようになりました。私たちが望んでいることは、神のみこころは何なのか、何が神を喜ばせることができるのかということによって選択をすることです。聖書のみことばを聞いても学んでいても、残念ながら、それだけではあなたの信仰は絶対に成長しないのです。でも、あなたが聞いたことを実践し始めた時に、神があなたのうちに働き始めるのです。成長というのは、みことばの実践なくしては絶対に起こらないのです。あなたの前にどんなご馳走を並べても食べなければ栄養にならないように、私たちもみことばを食べて、そして、そのみことばに従うことによってそれが自分の栄養になって力となって私たちは変わっていくのです。だから、すぐに誘惑に負けてしまうというのは、信仰において成長していないからであって、その原因は聖書を学んでいないからです。聞いているかもしれないけれど…。

そのような人がこの中にいないことを期待しますが、聞いても右から左に抜けていってしまうかもしれない。終わった後、「今日何を学んだ？」と聞かれても「何だか分からない…」、これではどのようにして成長を期待できますか？神が真剣であるように、あなたも私も神に対して真剣であることです。これは神ご自身が語っておられる、私たちが見ているのは「神のことば」だからです。聖書を学ばなければ信仰は成長しないし、誘惑に勝利することはできません。

(2) 聖書の教えを直ぐに忘れる人

直ぐに忘れるなら、今日学んだことを直ぐに忘れてしまうようではどのようにして実践できますか？もしかすると、すぐに忘れてしまうのは、聞いたみことばを実践する必要性をそれほど強く感じていないのかもしれませんが。それなら問題です。先ほども見たように、神が私たちに何を期待しておられるのか？どんな状況にあっても、いったい何が神の前に正しいのか、何が神を喜ばせるのか、何がみこころなのかを判断できるような信仰者、そのような信仰者にあなたが成長することです。そういう人こそが神の栄光を現すからです。そういう人へと神はあなたを変えていかれるのです。でも、そのために私たちは神の働きを妨げてはなりません。しっかりみことばを学び、そのみことばによって示されるみこころに神の力をいただきながら従っていくことです。そうするならあなたは変わっていきます。そして、栄光を現していきます。でも、聞いたことを直ぐに忘れてしまうなら、どのようにして成長が期待できるか？です。

(3) 神よりも人を見てしまう人

教えられている内容ではなく教えている人を見るのです。こんな立派な人が教えてくれているから、こんな著名な人が教えてくれているから、だから、教えている内容が正しいに違いないと。それは危険です、皆さん。あなたの責任は人ではなくて神を見ることです。本当に神がそのように言われているかどうか、そこを見なければいけないのです。弱い人は人を見て「立派な人だ、この人好きだわ」となり、そうするとその人が言っていることすべてを受け入れて、それがあたかも真実であるかのように信じてしまいます。そうして惑わされてしまう人たちがたくさんいるのです。

だから、みことばは言います。「気をつけなさい」と。また、パウロも I コリント 10 : 12 でこう言っています。「ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。」と。

F. 信仰者としての忠実さ 18 節

最後に「信仰者としての忠実さ」が記されています。18 節「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。」

1. 成長への願望 18 a 節

1) 成長したいと願うこと

この「成長しなさい」という動詞も現在形の命令です。ペテロは、このような過ちや罪への誘惑に対して最も効果的な防御は「継続して成長すること」とであると言います。これは「意志への訴え」です。あなたの信仰が成長しているなら、それがあなたを様々な誘惑や過ちから守ってくれます。問題は「いつまでも成長しないことです。ですから、先ず、私たちに必要なことは成長したいと願うことです。それは神の命令だからです。神が「こうしなさい」と言われたことを私たちは「わかりました。喜んでそれをします。」と答えるのです。

ピリピ書 3 章をご覧ください。そこにはパウロの信仰者としての歩み、どのような思いをもって歩んでいたのかが彼自身によって記されています。3 : 12 - 15 「:12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。:13 兄弟たちよ。私は、自分はずでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。:15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしましょう。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのこともあなたがたに明らかにしてくださいませ。」

目標を目ざしてそこに向かって一心に走っている様子を彼はここに記しています。なぜなら、彼は「完全を得たのではない」からです。もちろん、キリストがくださった罪の赦しは完全です。あなたの罪は完全に永遠に赦されました。ここに問題があるのではありません。ただ彼は信仰者として歩んでいるその信仰生活においてはまだパーフェクトではない、まだ発展途上だと言っているのです。だから、もっと神に喜ばれる者になっていきたいと、その思いがここに綴られています。その思いが彼によってこのように表されているのです。私はもっと先にあるその目標に向かって走り続けると言います。だから、彼は「すでに得たのでもなく」とか「すでに完全にされているのでもありません」と言っています。これは信仰者としてその信仰の歩みにおいて「もっともっと私は成長したいし、成長しなければならない」と、そういうことを言っているのです。

ですから、彼は信仰において完全な者になること、つまり、完全な大人になることを願ったのです。「完全」とは「信仰において大人になること」です。私たちの信仰者としてのゴールはイエスに似た者に変えられていくことです。最終的にイエスにお会いしたときに、主イエスに似た者になるのです。信仰者の皆さん、覚えなければいけません。あなたが救いに与ったその瞬間から神はあなたをだれに似た

者に変えようとしていますか？イエス・キリストです。その働きは始まったのです。あなたがイエスにお会いしたときに、あなたは神にはならないけれどもイエスに似た者になるのです。

そうすると、自分を見たときにどれ程不完全かは言うまでもありません。だから、私たちは少しでも成長し少しでも変えられて、よりイエスに似た者に近づいていきたいと願います。その働きをあなたのうちに住んでいる聖霊は、あなたのうちで始めようとしてもう始まっているのです。それを邪魔しないことです、皆さん。そのためには、私たちはもう何度も学んで来たように、罪から離れてみことばに従っていくことです。そのときに神はあなたを変え続けていってくださるのです。パウロは「完全ではない、追求している」と言いながら、一生懸命、少しでも主に喜ばれる者になっていきたいと、そのことを願いながら主に従って行ったのです。「うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み」と、こうして自分の歩みを妨げる罪を彼は神の前に告白しながら主に従い続けていこうとしました。あなたが歩もうとしている同じ歩みをパウロもしていたということです。

だから、そのように歩み続けていくことです。このみことばを学び、それを実践することによって、少しでも主が喜んでくださるように歩み続けて行くことです。

2) 成長の中身 : イエス・キリストの恵みと知識における成長

「成長」に関して、ペテロは二つの分野を教えています。18節に「イエス・キリストの恵みと知識において」と書かれています。「おいて」と訳されているこのことばのギリシャ語は前置詞で「中に」という意味です。「in」です。もう、あなたはその中にいるからです。つまり、あなたは私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長できる。なぜなら、もうあなたはその中にいるから、その中に招かれているから、だから、あなたはその中であって成長するようと言うのです。

この「恵み」と「知識」はとても重要なので皆さんにしっかり分かっていただきたいと思います。パウロもそのことを教えています。コロサイ人への手紙1章をご覧ください。みことばを見ていて驚かされることは、ペテロの教えはペテロだけの教えではなくパウロも教えているということです。そして、パウロの教えもパウロだけでなく主ご自身も教えておられます。今見ようとしているところはパウロの教えですが、ペテロが教えたことと同じことをここに見て取ることができます。コロサイ人への手紙1:10、11「:10 また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。:11 また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、」

(1) 神を知る知識を増し加えられる = 知識

先程も見ました。ペテロも「成長しなさい」と言いました。「成長し続けなさい」と。どんな分野においてですか？「知識において」と言います。パウロはここで「神を知る知識を増し加えられ」と記しています。

(2) あらゆる力をもって強くされる = 恵み

そして、11節「また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、」と、これは後ほど説明しますが、「恵み」のことを言っているのです。

ですから、パウロがこのコロサイ書で言わんとしたこと、パウロ自身が望んでいたことは、このコロサイの人々が「神についての知識において、また、恵みにおいて成長していくこと」です。ちょうど、ペテロが願ったように…。

・「神を知る知識」 : これは、聖書を創世記から黙示録まで全部読んで全部暗記するというではありません。私たちの「神を知る知識」とは、実生活においてみことばが適用されることによって学んでいくことです。こうして活字で見ると、私たちの実生活と距離がありませんか？確かに聖書はそう言っているけれども実生活ではちょっと違う？とか、もしかすると、2000年前にペテロは今私たちが経験するようなことを経験していなかったのではないかとか…。しかし、私たちに必要なことは、みことばを学んだときに、そこに記されている真理を私たちの日々の生活で生かすのです。適用するのです。そのことを通して何が起るのか？神に対する私たちの信頼が増し加わっていきます。なぜか？本当に神が言われた通りだ、本当に神は言われたことを実践されるのだ、本当に主が言われた通りだと、そうしてみことばに対する信頼の度合いが増し加わっていきます。

皆さんの信仰生活の中でもそのようなことがあるでしょう？ただみことばの知識だけを持っている人は力がありません。でも、そこで学んだ真理を実生活に生かした時に「本当にそうだ！本当に神はこうして約束を成就してくださった。このように神が働いてくださっている。言われた通りだ！」と。そうすると、間違いなくその人の信仰は成長していくでしょう。確信が増していくのです。そのようにして私たちは神を知るのです。なぜなら、だれかを知ったというときに、ただその人の情報を知っただけというのと、その人と直接的につながって交わってその人を知るといふのでは全然違うからです。

新聞やメディアを通していろいろなニュースが流れて来て、その人のことを知っているかもしれない。でも、その人と付き合ったときに情報では流れない本当の部分が見えるわけでしょう。マスコミがだれかの悪口を言うかもしれないけれど、その人をよく知っている人が「それは違うよ」と言っている場合と同じことです。その人のことをよく知っているからそのように言えるのです。私たちもこうして聖書を通して神の知識を得ますが、それは本当に知ったことではないのです。でも、日々の生活で神の言われたことを実践して「神は本当にそうなのだ」と確信をもったときに、神は遠くの存在ではなくて身近な存在になるからです。

・ **あらゆる力をもって強くされる** : これは「恵み」だと言いました。この「強くされる」という動詞も現在形です。しかも、受け身ですから、「あなたはあらゆる力をもって強くされ続けていく」のです。だれによって？神によってです。神があなたを強くし続けていってくれるのです。この「力」についてエペソ書をご覧ください。1：19「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」と。パウロは「クリスチャンたち、あなたはまだあなたに与えられた神の力がどんなにすばらしいものか、それが分かっていない。」と言うのです。実は、そこが問題なのです。そして、神はそれを教えるためにいろんな機会を私たちにくださっているのです。

先ほど見たコロサイ人への手紙に戻って「あらゆる力をもって強くされる」、この力によってあなたは強くされるのです。その後を見てください。「忍耐と寛容を尽くし、」と「忍耐と寛容」ということばがあります。「忍耐」とは「ありとあらゆる状況に耐える力」です。困難な状況に押し流されないということです。「寛容」とは人に対することです。どちらも困難に関連しています。様々困難や状況を経験することもあるし、もしかすると、人によってもたらされるかもしれません。パウロは様々な困難の中にあっても、神の力によってあなたは主に喜ばれることを実践できると言っているのです。皆さん、しっかり考えてみてください！

(1) **内住する力** : 神があなたに力をくださった。どんな力か？毎日いろんなことが起こるわけです。嬉しくないこともたくさん起こるわけです。でも、神がくださった力は、その中であってあなたが神に喜ばれることを為していくための力なのです。困難のその極みにあって、絶望のどん底にあって、その中でも私たち信仰者は神の栄光を現すことが可能になったのです。その力を私たちはいただいたのです。その力を神はあなたに与えてくださったと、ペテロもパウロもこうして教えてくれているのです。私たちは気付かなければいけません。「こんな状況で、私の心はもう本当にずたずたで神を見上げることもできない。神に感謝をささげることもできない。余りにも辛くてどうしようもない！」と、そのような状況の中にあっても神を賛美できる力を神はあなたにくださったのです。そうでなければ、世の中の人と変わらないでしょう。喜べる時に喜び、喜べないときには喜ばないと、そのような歩みを通して、どのようにして私たちの神が全能の神であるということを明らかにできますか？神があなたにくださったその力というのは「全能の神の力」です。全能、つまり、どんなことでもお出来なる神です。この方はおことばをもってこの世界のすべてをお造りになりました。「光よ、あれ」で光ができたのです。そんな神です。

そして、あなたも私も罪のどん底にいて霊的に死んでいた状態で何も神のことが分からない私たちを、そこから救い出して生まれ変わらせてこうして生かしてくださっている、その力です。この神の力があなたのうちには備えられているのです。何のために？どんな状況でも、どんな境遇でも、どんな場面に私たちが置かれていようと、その中であって神の栄光を現すその力なのです。その力を神はもうあなたに与えてくださったのです。だから、彼らが教えることは、その力にあって私たちは成長することができるということです。先ほどから「力」ということばを繰り返していますが、これこそが「恵み」なのです。つまり、どんな神の命令であっても、神が「こうしなさい」と言われたことを実践できる、これが「恵み」なのです。

(2) **栄光ある権能** : コロサイ1：11に「神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、」と「権能」ということばがあります。これは「行動における力」です。行いにおける力のことです。つまり、神はここにあるように「神の栄光あるその御力において」、その行動を生み出す力です。そのことによってすべてのことをしてくださっているのです。ですから、神がどんなことでもお出来になったように、私たち信仰者も神の命令を実践するために必要な力をもうすでにいただいているのです。それが分かった信仰者は、今喜べないこの状況でも「いつも喜んでいなさい」ということを神が助けてくださるからそのようにできると知っているのです。だから、それを信じて実践するのです。「すべてのことに感謝する」ということも、私たちがどんなに意志を強くしてもできないことです。でも、神の命令である以上神がそれを可能にしてくださる、そのことを知っている信仰者は白旗を振りながら「主よ、私を助けてください。あなたができるとおっしゃったのですから、そのように私を変えていってください。」

と言います。そのときに、あなた自身も、そして、周りの人たちも、あなたに与えられた神のその力がどんなに素晴らしいものであるかを知るのです。

*** 「すでに与えられた力」を知ることが必要！**

私たちの問題は、先ほどエペソ1章で見ましたが、私たちのうちに与えられた力がどんなに偉大なものが分かっていることでした。「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」（1：19）と、パウロがこんなことを言ったのは、このことを知らない人たちがいっぱいいるからです。

皆さん、いろんなことを日々経験する中であって「主よ、どんなみわざが為されるのか私は期待しています」という、そんな信仰者がどの位いますか？感謝できないという中であって「主よ、今現実はどうです。でも、その中であってあなたは私に喜びをくださるし、その中で賛美できるように助けてくださる方です。あなたの力を信じます！」と言えるそんな信仰者がどれだけいるのでしょうか？それとも最初から「無理だ」と言って神に助けを求めようもしない、でしょうか？私たちが覚えなければいけないことは「私は私を強くしてくださる方によってどんなことでもできます。なぜなら、私のうちには私を強くしてくださる方、神ご自身がいてくださるから。」であるはずで、みことばは、あなたが独自に頑張って働きをなさいと言っていません。神の力が必要なのです。そして、神の力が働かれたときに神のわざが為されるのです。

私たちが「恵みによって生きる」とはどういうことでしょうか？どんなときでも神の力を信じることです。みことばを通してみこころが示されたなら、私たち信仰者は「主よ、どうか助けてください。あなたのみことばを行いたいから、あなたが望まれているような人になりたいからどうか助けてください。恵みによって私を導いてください。」と、そうして神に助けを求め続けていくのです。それが私たちの信仰なのです。イエス・キリストが私たち信者のうちに住んでおられるのです。ガラテヤ2：20「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」、ピリピ4：13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」。

2. 成長へのかぎ 18b節

最後を見てください。18節の続きに「このキリストに、栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように。アーメン。」とあります。これは「頌栄」です。神を称えています。

*** 神だけが栄光を受けるにふさわしいお方！**

この方が神であるゆえにこの方を称えるのです。この方が創造主であられるゆえに称えます。この方が救いを与えてくださったゆえにこの方を称えます。

神が示されたご自身の栄光は、（1）全能の力 （2）創造の力 （3）救いの力 です。

*** 私たちが主なる神を崇める理由**

1) 神であられるゆえに : 詩篇57：5、11「:5 神よ。あなたが、天であがめられ、あなたの栄光が、全世界であがめられますように。」「:11 神よ。あなたが、天であがめられ、あなたの栄光が、全世界であがめられますように。」、詩篇108：5「神よ。あなたが天であがめられ、あなたの栄光が全世界であがめられますように。」、神が守り続けてくださいます。

2) 創造主であられるゆえに : 詩篇95：6「来たれ。私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちが造られた方、【主】の御前に、ひざまずこう。」、

3) 救いを与えてくださったゆえに : パウロがⅡテモテ4：18で「主は私を、すべての悪のわざから助け出し、天の御国に救い入れてくださいます。主に、御栄えがとこしえにありますように。アーメン。」と述べています。救ってくださったお方だから私たちはこの方を誉め称えるのです。

4) 信仰生活の必要を満たしてくださるゆえに : しかも日々の信仰生活において必要を満たしてくださるからこの方を称えるのです。ユダ1：24に「あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、」とあります。信仰者としてこの地上を生きていくこの歩みにおいて、この神があなたを守り続けてくださるのです。Ⅰコリント3：6「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」、

*** だから、「神にのみ栄光があるように」と神を称える！**

ローマ11：36に「というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」と書かれている通りです。この方が神であり、創造主であり、あなたや私を救ってくださり、この方が守ってくださり私たちを導いてくださる。こんな素晴らしい祝福に私たちは入れられているのです。ですから、私たちは神を称えるのですが、見てください。18節に「このキリストに」とあります。「神に」と言わずに「キリストに」と述べています。

実は、この最後の頌栄では二つのことを私たちに教えます。

(1) **キリストの神性** : 一つ目は「イエスがだれであるか」を明らかにしています。「キリストの神性」がここに記されています。先ほども話したように、神を崇めるのです。神の栄光を私たちは願うのです。なぜここに「イエスに栄光があるように」言っているのか？イエスが神だからです。実は、ペテロはこのペテロの手紙第二で、1:1に「イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。」と、ここで「イエス・キリストは神だ」と言って、そして、最後の3:18でその「神であるイエス・キリストに栄光がありますように」と結ぶのです。この方は神なのです。ですから、この方に栄光がありますようにとペテロは言うのです。

しかも、ただ神だけではない。この方によって私たちは成長するのです。この方によって私たちは救われ、この方によって私たちは導かれ助けられ、そして、私たちは成長していきます。みこころを教えてください、みこころを實踐できるように生まれ変わらせてくださったのは主であり、そして、みこころを實踐するための力、つまり、恵みを与え続けてくださるのも主なのです。だから、この方が誉め称えられるのです。皆さん、ぜひ覚えてください。この頌栄にあなたも私も加わっているのです。なぜなら、神は私たちに大きな祝福を与えてくださったからです。こうして私たちはこの地上を生きるのです。

(2) **天国における過ごし方** : そして、もう一つ大切なことは、18節に「今も永遠の日に至るまでもありますように。」と書かれています。これは、私たちが天国に行ったときに何をして過ごすのかを教えてください。神の栄光を称えながら生きるのはこの地上だけではないのです。天に行ってもそのようにするのです。ですから、ペテロは「今も、しかも永遠の日に至るまでも」と言います。私たちはずっとそれを続けるのです。天国に行ったら何をやるのか？私たちにとって一番の喜びであること、私たちの神を称え続けるのです。そうして私たちは永遠を過ごすのです。

今、地上にいても本当に心が正しいときに神を心から誉め称えているときの喜びは、他の何のものにも代えられません。私たちは罪から完全に解放されて、完全なからだをいただいて、そして、この完全な主を称え続けていくのです、とこしえに。ペテロは最後の最後に、私たちが天に上がったときのことを教えてくださいました。ここにしか書かれていません。このようにして私たちは永遠を過ごすのです。

永遠の称賛に値する神です、私たちの神は…。そう思いませんか、皆さん？この方がすべてを造り、そして、私たちを造り、そして、私たちを罪から救い出し、私たちに永遠の天国を約束し、この地上にいても私たちを助けながら神の栄光を現し、この神によって用いられ、そして、この神の前に立つときにこの神は「よくやった」と言ってくださる。このお方はどんな神なのでしょう！この方を称えながら生きるのです、今もとこしえに。その約束をペテロはこうして明らかにしてくださった。

初めていきましょう。主が与えてくださった恵みをしっかり覚えて、その方を称えながらこの地上をしっかりと生きることです。この方はすべての被造物によって称賛をお受けになるにふさわしい、唯一の神です。

《考えましょう》

1. 誘惑者たちはどのように人々を誘惑するのでしょうか？
2. どうして人々は惑わされてしまうのか、その理由を記してください。
3. 「知識と恵みによる成長」は信仰者にとって可能なことなのでしょうか？
その理由を挙げてください。
4. 「知識と恵みによる成長」を妨げるのは何だと思いますか？ どうすればその障害に勝利することができるのでしょうか？